

# 東京新聞

中日新聞東京本社  
東京都千代田区千代田二丁目1番4号  
〒100-8505 電話 03(6910)2211

世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループに

Quality for You  
誰かへのクリエイトを、明日へ、世界へ

MUFG  
三菱UFJ  
フィナンシャル・グループ

読者とともに  
紙面へのご意見  
お問い合わせは

●電話  
03-6910-2201  
土日祝日除く9:30~17:30

●FAX  
03-3595-6935

東京新聞ホームページ  
TOKYO Web  
www.tokyo-np.co.jp

政治部など本紙記者がツイッターでつぶやいています

ご購入申し込み  
0120-026-999

## 周辺国の軍備増強に懸念

# 中古武器輸出を検討

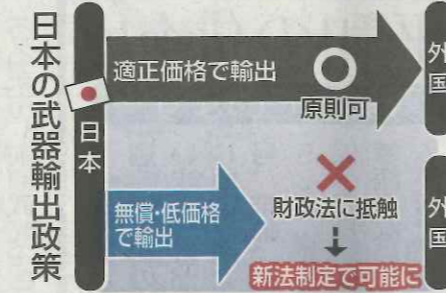
### 「無償・低価格」特例法で

国産の中古武器を無償や低価格で輸出できるようにするため、防衛装備庁が法整備を検討していることが分かった。武器輸出を原則認めた二〇一四年春の政策転換を受けて進む輸出の仕組みづくりの一つ。同行装備政策課は新興国を念頭に「関係強化して安全保障環境を安定させる上でも、新たな法整備は必要だ」とするが、「日本周辺国の軍備増強を助長する」と懸念する声もある。

装備政策課によると、防衛装備移転三原則の閣議決定を受け、安全保障や災害救援活動などで防衛省が支援している新興国から、自衛隊が使用する装備の提供を求める声が高まっている。

要請している国には、東南アジア諸国連合(ASEAN)の加盟国や南アフリカ、ブラジルなどが含まれているという。

国有財産の管理・運用を規定する財政法は「無償または適正な価格なくして譲渡してはならない」と規定し、無償や低価格での提供を禁じている。このため、武器輸出を財政法の例外扱いとする法律(特例法)をつくり、一七年以降の国会提出を検討する。輸出対象はヘルメットや防弾チョッキから地雷除去機、装甲車、潜水艦までさまざまな装備を想定する。



### 防衛装備庁

日本は過去の国連平和維持活動(PKO)支援などで、他国に重機や地雷探知機など殺傷能力を伴わない装備を提供した際も、特別措置法を制定。提供時期や対象を限定し、無制限に適用されないように歯止めをかけてきた。

防衛省が設置した防衛装備移転に関する有識者の検討会(座長・白石隆政策研究大学院大学学長)は一五年九月、輸出への地ならしが進む。防衛省が設置した武器輸出の課題を検討する外部有識者会合は、中古武器の無償・低価格輸出のほか、政府系銀行から武器購入国への融資など多岐にわたって提言し、防衛装備庁が個々に検討している。

外交面でも準備は進む。

武器輸出には、情報保護や目的外使用を禁じるなど協定を結ぶ必要がある。政府は十一月にフィリピンと協定締結で大筋合意し、十二月にインドと締結した。オーストラリアへは潜水艦の売り込みを進めている。

防衛省幹部は武器輸出の意義を「武器の操作や整備、補修などを通じ、他国の軍人と自衛隊が交流を深めること、日本とその国との安全を強化させるもの」と説明する。しかし、技術流出や輸出した武器が第三国に転売される危険など、クリアしなければならぬ問題は多い。

武器輸出が本格化すれば、日本人が作った武器によって人々が殺傷されることも現実となる。戦後日本が歩んだ平和国家の道は、過去のものとなりかねない。(望月衣聖子)

## 転売リスク手つかず

### 解説

日本の武器輸出政策が原則禁止から原則容認に変わって一年九カ月、輸出への地ならしが進む。防衛省が設置した武器輸出の課題を検討する外部有識者会合は、中古武器の無償・低価格輸出のほか、政府系銀行から武器購入国への融資など多岐にわたって提言し、防衛装備庁が個々に検討している。

外交面でも準備は進む。

## 戦後71年も「平和の俳句」

戦後70年の2015年1月1日から、読者の皆さんの投稿作品を1日1句、1面に掲載してきた「平和の俳句」。戦後71年のことしも続けます。

### ゲスト選者 3月は黛まどかさん



まゆすみ・まどか 神奈川県湯河原町出身。1994年に初の句集『B面の夏』を出版。女性だけの俳句結社「東京ヘッパーン」を創立し、俳誌『月刊ヘッパーン』を創刊。2002年に句集『京都の恋』で第2回山本健吉文学賞。文化庁文化交流使としてフランスで俳句を指導するなど幅広く活躍する。

俳壇の重鎮・金子兜太さん(みごと)、作家などマルチに活躍するいとうせいこうさん(五巴)のレギュラー選者に加えて、二月に一度、ゲスト選者が登場します。第一弾は、俳人の黛まどかさん(まどか)に決定しました。黛さんの担当は三月の掲載分で、今月上旬から来月上旬の投稿が対象になります。「平和の俳句」は、昨年一年間に三百五十四句を掲載。四十七都道府県のほか、

琉球新報も賛同 2面に続く

## がん患者支えたい

### 東京・江東に新施設 費用すべて寄付

二〇一〇年までの限定施設だが、運営するNPO法人「マギーズ東京」の共同代表理事で看護師秋山正子さん(みさ)は「東京都在住」は「看護師やケースワーカーとの対話を通じ、患者さんが治療や今後の人生について考えられる場」と話している。

施設は、秋山さんが英国発祥の「マギーズセンター」を目標に構想。インターネットで資金を募る「クラウドファンディング」を利用したところ、約千八百人から計約二千二百万円が集まった。クラウドファンディングの運営会社が日本でサービスを開始して以来、最高額(当時)で、がんで肉親を亡くした遺族、元患者らも善意を寄せた。

これに、秋山さんが他の方法で約千二百万円を集めた約千七百万円を足した。用地は企業が低額で貸してくれた。



### 平和の俳句

赤ちゃんがまじめにおならする平和

磯谷 佳世子(83) 東京都豊島区

〈金子兜太〉赤ちゃんは、いま男児三十一歳。昔は真面目におならをしていたのです。いとうせいこう あけましておめでとうございます。まどかにおめでとう。生命の息吹の平和。

2016.1.1

## 平和を続けるために

和田誠さん 対談の面 吉永小百合さん

元日の紙面  
特報 28 29  
つらだましい 面魂 戦わないため闘う  
工務は休み 運動は即日に掲